

報 告 第 1 号

国のグランドデザインを踏まえた「高等学校教育改革実行計画」
の策定に向けて

令和 22 年（2040 年）を見据えた新たな高等学校教育の在り方を示す「高校教育
改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040 年に向けた「N-E. X. T.（ネ
クスト）ハイスクール構想」～」を踏まえて県が策定する「高等学校教育改革実
行計画」の検討状況について、別紙のとおり報告します。

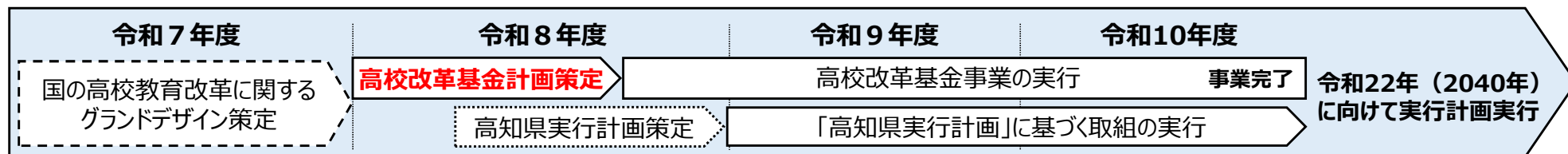


1 事業目的 【文部科学省】

- ・令和22年（2040年）を見据えた新たな高等学校教育の在り方を示す「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～令和22年（2040年）に向けた「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」～」の確実な実装を図ることが必要
- ・各都道府県において今後本格化する「高等学校教育改革実行計画」の策定や推進に先立ち、教育内容の抜本的改革と、それを可能にする環境整備を一体的に行う**改革を先導する拠点を先行して創設し、その取組・成果を地域全体へ普及させるパイロットケースを構築**

2 事業内容 【文部科学省】

各都道府県に基金を設置し、類型に応じた**高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組・成果を域内の高校に普及**する



令和22年（2040年）までの目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】

- ・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校:100%
- ・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現状と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】

- ・文理横断的な学びに取り組む普通科高校100%
- ・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合:同程度

【多様な学びの確保関係】

- ・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
- ・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

改革先導校の類型

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等 育成支援

- 地域産業や社会・生活基盤を支える分野において、新技術を活用し、生産性の向上・高付加価値化の実現が求められている。
- 技術革新のスピードが加速する時代に適した**課題解決能力の獲得**に向け、**探究的・実践的な学びの積み重ねや深まりのある学び**を実現する。

理数系人材育成支援

- 未来成長分野においては、理系高等教育への進学者の割合の増加、高等教育での実践的な教育が求められている。
- 先進的な新たな知を生み出す力を育成するため、**理数的素養を身に付けつつ**、自ら問いを立て、解決する研究を行う高等教育を見据えた**文理融合の学び**を実現する。

多様な学習ニーズに対応した 教育機会の確保

- 少子化への対応においては、生徒の地理的アクセスの確保を図ることに留意しつつ、多様な人間関係の中で得られる学びを踏まえれば、**一定の生徒数の規模を確保した学びを提供することが必要**。
- 人口減少地域に、魅力ある学びの選択肢を増やすため、**地域の教育資源を活かした学び**や**遠隔授業を活用した学び**の提供を実現する。

3 高知県の事業計画

- (1) 計画名 : 高知家の未来を創る産学官の連携による高等学校教育改革推進事業
- (2) 申請額 : 62億円
- (3) 事業内容 : 別添「高等学校等教育改革促進事業「パイロットケース」の概要」のとおり

	類型 1 アドバンスト・エッセンシャル ワーカーの育成	類型 2 理数系イノベーション人材の 育成	類型 3 多様な学びのニーズに対応した教育機会の確保
拠点校	高知農業高等学校	高知小津高等学校	高知東高等学校
協力校	高知東工業高校、高知工業高校、伊野商業高校、高知海洋高校、幡多農業高校、宿毛工業高校	安芸中・高校、須崎総合高校、中村中・高校	室戸高校、中芸高校、安芸中・高校、城山高校、嶺北高校、(吾北分校、)高岡高校、佐川高校、窪川高校、禰原高校、四万十高校、大方高校、中村中・高校、西土佐分校、宿毛工業高校、宿毛高校、清水高校
主な取組 (特徴)	一次産業のDXの推進や、デジタル技術を活用した新たなカリキュラムの開発を通じて、専門分野を融合した「6次産業化」をけん引し、フードテック等の分野でイノベーションを創造できる人材を育成する。	新たなコースやラボ(共同研究室)を設置し、大学・企業等と連携した高度で実践的な探究活動を通じ、創造力やイノベーション力を育成する。	拠点校に遠隔授業配信センターを併設し、県内の高校の教育機会を確保するための授業配信等を実施する。また、3課程(全日制、定時制昼間部、通信制)を併置し、生徒の学びのニーズに柔軟に対応する。
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スマートハウスやスマート畜舎を整備し、少人数で高効率な生産管理を実現 ◆ 教科横断的なカリキュラムの開発(食の生産、加工、流通、販売の「6次産業化」を柱とする) ◆ 産学官の連携拠点として「フードテックラボ」を整備(専門高校や大学、企業等との連携による共同研究・開発) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 理数・防災科学の専門性を高める探究学習を推進するカリキュラムを基盤とした2つのコースを新設 <ul style="list-style-type: none"> ・理数探究コース ・防災科学コース ◆ 「サイエンス・イノベーション・ラボ」を整備し、大学・企業等と連携して高度で実践的な探究活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内のエリア別に、遠隔教育充実のための中心となる協力校を設置 ◆ 3課程併置校の強みを生かし、ICTの活用と地域連携を取り入れた、生徒の主体的な学びを支える学習環境を整備
	 <p>フードテックラボ (イメージ)</p>	 <p>サイエンス・イノベーション・ラボ (イメージ)</p>	 <p>遠隔教育の県立高校全体への拡充 (イメージ)</p>
			<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「まんが・アニメコース」の新設 <ul style="list-style-type: none"> ・企業や専門学校から専門人材を招へいし、専門的な技術指導を実施 ◆ 「多文化共生コース」の新設 <ul style="list-style-type: none"> ・大学や団体等と連携し、日本語指導や教科指導、キャリア支援等を実施
			 <p>まんが・アニメ制作実習室 (イメージ)</p>  <p>多文化共生室 (イメージ)</p>